

看護師特定行為研修募集要項

2021年4月

医療法人鉄蕉会 亀田総合病院

特定行為研修の目的

亀田メディカルセンターは、豊かな人間性を備え、優れた看護実践を提供するとともに、主体的に自己のキャリア開発を目指す看護職を育成することを目的としています。

また、少子高齢化社会において、急性期から在宅まで、様々な領域で患者の状態を見極め、ニーズに迅速かつ効果的に対応するために、特定行為を活用して看護の専門性を発揮する看護師を育成することを目的として、2019年9月より特定行為研修を開始しています。

特定行為区分

1. 呼吸器（気道確保に係るもの）関連
2. 呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連
3. 呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連
4. ろう孔管理関連
5. 栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連
6. 栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連
7. 創傷管理関連
8. 創部ドレーン管理関連
9. 動脈血液ガス分析関連
10. 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
11. 血糖コントロールに係る薬剤投与関連
12. 循環動態に係る薬剤投与関連
13. 循環器関連
14. 胸腔ドレーン管理関連
15. 腹腔ドレーン管理関連
16. 術後疼痛管理関連
17. 精神及び神経症状にかかる薬剤投与関連

領域別パッケージ

1. 在宅・慢性期領域パッケージ
2. 外科術後病棟管理領域パッケージ
3. 救急領域パッケージ
4. 集中治療領域パッケージ

特定行為研修の到達目標

地域医療及び高度医療の現場において、迅速かつ包括的なアセスメントを行い、当該特定行為を行う上での知識、技術及び態度の基礎的能力を養う。

<共通科目>

- ・多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントする基本的な能力を身につける。
- ・多様な臨床場面において必要な治療を理解し、ケアを導くための基本的な能力を身につける。
- ・多様な臨床場面において患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実践する能力を身につける。
- ・問題解決に向けて多職種と効果的に協働する能力を身につける。
- ・自らの看護実践を見直しつつ標準化する能力を身につける。

<区分別科目>

- ・多様な臨床場面において当該特定行為を行うための知識、技術及び態度の基礎を身につける。
- ・多様な臨床場面において、医師又は歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否の判断、実施及び報告の一連の流れを適切に行うための基礎的な実践能力を身につける。

(施行通知第2の5、別紙5)

受講者の要件

<必須条件>

1. 看護師免許
2. 看護師の免許取得後、通算3年以上の実務経験
3. 所属長の推薦
4. 当院に演習、実習、試験のために通えること

研修定員

定員30名

各特定行為区分受け入れ人数：5～20名

各領域パッケージ受け入れ人数：4名

指定枠：亀田総合病院に所属する看護職

一般枠：上記施設以外に所属する看護職

*希望者がいない特定行為区分、領域パッケージは休講

第3期 研修スケジュール

2021年 9月 開講式

9月～2022年3月 共通科目：e-learning、演習、実習、筆記試験

2022年 3月～8月 区分別科目：e-learning、演習、実習、試験

8月 修了式

*原則、毎月第1・3土曜 研修日：講習、演習、実習、筆記試験を実施

但し、講師の都合により平日になる場合もある

*選択区分数により後期日程は異なる

患者に対する実技の実習の前にシミュレーション実習を行う。

研修場所

亀田総合病院：

- ・演習室：CSS センター、研修棟 2 階 研修室
- ・実習室：CSS センター
- ・実習場所：ICU、各病棟、ER、画像センター、手術室
- ・科目修了試験（オンライン）：研修棟 2 階 研修室
- ・e-learning 学習：図書室、研修棟 4 階 特定行為自習室

特定行為研修進捗表（添付）

科目名と教育方法および時間数

共通科目と各区分別科目の教育方法と時間数は以下のとおり。認定看護師教育課程ですでに履修した科目については、それに関連する科目受講を免除します。（別添：履修免除規程）

個々の活動の場のニーズに応じて区分科目を選択することが可能。

1) 共通科目の概要

共通科目名	総時間数	講義 (e-learning 個別学習)	演習・実習
臨床病態生理学	30 時間	27 時間（試験時間含む）	2 時間（演習）
臨床推論	45 時間	35 時間（試験時間含む）	8 時間（演習）1 時間（実習）
フィジカルアセスメント	45 時間	39 時間（試験時間含む）	3 時間（演習）2 時間（実習）
臨床薬理学	45 時間	35 時間（試験時間含む）	9 時間（演習）
疾病・臨床病態概論	40 時間	34 時間（試験時間含む）	4 時間（演習）
医療安全学/特定行為実践	45 時間	24 時間（試験時間含む）	12 時間（演習）8 時間（実習）
合計	250 時間	194 時間	49 時間

2) 区分別科目の概要

区分番号	区分別科目名	特定行為名	指定 時間数
1	呼吸器（気道確保に係るもの）関連	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	10 時間
2	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	侵襲的陽圧換気の設定の変更	31 時間
		非侵襲的陽圧換気の設定の変更	
		人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	
		人工呼吸器からの離脱	
3	呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	気管カニューレの交換	9 時間
4	ろう孔管理関連	胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換	23 時間
		膀胱ろうカテーテルの交換	
5	栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連	中心静脈カテーテルの抜去	8 時間
6	栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	8.5 時間
7	創傷管理関連	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	35 時間
		創傷に対する陰圧閉鎖療法	
8	創部ドレーン管理関連	創部ドレーンの抜去	6 時間
9	動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺法による採血	14 時間
		橈骨動脈ラインの確保	
10	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整	17 時間
		脱水症状に対する輸液による補正	
11	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	インスリンの投与量の調整	17 時間
12	循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整	31 時間
		持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整	
		持続点滴中の降圧剤の投与量の調整	
		持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整	
		持続点滴中の利尿剤の投与量の調整	

1 3	循環器関連	一時的ペースメーカーの操作及び管理	20 時間
		一時的ペースメーカーのリード抜去	
		経皮的心肺補助装置の操作及び管理	
		大動脈内バルーンパンピングからの離脱を行うときの補助の頻度の調整	
1 4	胸腔ドレーン管理関連	低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及び設定の変更	13 時間
		胸腔ドレーンの抜去	
1 5	腹腔ドレーン管理関連	腹腔ドレーンの抜去(腹腔内に留置された穿刺針の抜針を含む)	8 時間
1 6	術後疼痛管理関連	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	8 時間
1 7	精神及び神経症状にかかる薬剤投与関連	抗けいれん剤の臨時的投与	32 時間
		抗精神病薬の臨時的投与	
		抗不安薬の臨時的投与	

※指導者は、必要に応じて速やかに添削指導（各科目 1 回以上）を行う。

3) 領域パッケージ

	特定行為区分	特定行為	区分単位 (時間)	領域パッケージ (時間)			
				在宅	外科	救急	集中治療
1	呼吸器関連 (気道確保に係る行為)	経口・経鼻気管挿管チューブの位置調整	9		9	9	9
2	呼吸器関連 (人工呼吸療法に係る行為)	優襲的陽圧換気の設定条件の変更	29		17	29	23
		非優襲的陽圧換気の設定の変更					
		人工呼吸器がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整					
		人工呼吸器からの離脱					
3	呼吸器関連 (長期呼吸療法に係る行為)	気管カニューレ交換	8	8			
4	循環器関連	一時的ペースメーカーの操作及び管理	20				8
		一時的ペースメーカーのリード抜去					
		経皮的心肺補助装置の操作及び管理					
		大動脈内バルーンパンピングからの離脱を行うときの補助の頻度の調整					
5	胸腔ドレーン管理関連	低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及び設定の変更 胸腔ドレーンの抜去	13		13		
6	腹腔ドレーン管理関連	腹腔ドレーンの抜去 (腹腔内に留置された穿刺針の抜針を含む)	8		8		
7	ろう孔管理関連	胃ろう・腸ろうがーテル・胃ろうボタンの交換 膀胱ろうがーテルの交換	22	16			
8	栄養に係るがーテル管理関連 (中心静脈がーテル関連)	中心静脈がーテル抜去	7		7	7	
9	栄養に係るがーテル管理関連 (PICC関連)	PICC (末梢留置型中心静脈注射用がーテル) 挿入	8		8		
10	創傷管理関連	褥瘡・慢性創傷における血流のない壊死組織の除去 創傷の陰圧閉鎖療法の実施	34	26			
11	創部ドレーン管理関連	創部ドレーンの抜去	5		5		
12	動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺による採血 橈骨動脈ライン確保	13		9	13	
13	栄養・水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴投与中薬剤 (高カロリー輸液) の病態に応じた調整 脱水の程度の判断と輸液による補正	16	11	11	11	
14	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	インスリン投与量の調整	16				
15	術後疼痛管理関連	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	8		8		
16	循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整	28		16		20
		持続点滴中のナトリウム・カリウム又はクロールの投与量の調整					
		持続点滴中の降圧剤の投与量の調整					
		持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整					
		持続点滴中の利尿剤の投与量の調整					
17	精神及び神経症状にかかる薬剤投与関連	抗けいれん剤の臨時的投与	26			20	
		抗精神病薬の臨時的投与					
		抗不安薬の臨時的投与					
区分別科目合計時間数			270	61	119	82	76
合計時間数 (共通科目+区分別科目数) 時間			520時間 +各5症例	311時間+ 各5症例	369時間+ 各5症例	332時間+ 各5症例	326時間+ 各5症例
合計行為数 17区分			34	4	15	9	10

1. 在宅・慢性期領域パッケージ

	特定行為区分	特定行為	領域パッケージ (時間)
			在宅 (区分時間数+症例数)
1	呼吸器関連 (長期呼吸療法に係る行為)	気管カニューレ交換	8+5 症例
2	ろう孔管理関連	胃ろう・腸ろうがーテル・胃ろうボタンの交換	16+5 症例
		膀胱ろうがーテルの交換	
3	創傷管理関連	褥瘡・慢性創傷における血流のない壊死組織の除去	26+5 症例
		創傷の陰圧閉鎖療法の実施	
4	栄養・水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴投与中薬剤 (高カロリー輸液) の病態に応じた調整	
		脱水の程度の判断と輸液による補正	11+5 症例
区分別科目合計時間数			61
合計時間数 (共通科目+区分別科目数) 時間			311時間+各5 症例
合計行為数 17区分			4

2. 外科術後病棟管理領域パッケージ

	特定行為区分	特定行為	領域パッケージ
			外科 (時間+症例数)
1	呼吸器関連 (気道確保に係る行為)	経口・経鼻気管挿管チューブの位置調整	9+5 症例
2	呼吸器関連 (人工呼吸療法に係る行為)	侵襲的陽圧換気の設定条件の変更	17+10 症例
		非侵襲的陽圧換気の設定の変更	
		人工呼吸器がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整 人工呼吸器からの離脱	
3	呼吸器関連 (長期呼吸療法に係る行為)	気管カニューレ交換	8+5 症例
5	胸腔ドレーン管理関連	低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及び設定の変更 胸腔ドレーンの抜去	13+10 症例
6	腹腔ドレーン管理関連	腹腔ドレーンの抜去 (腹腔内に留置された穿刺針の抜針を含む)	8+5 症例
8	栄養に係るカテーテル管理関連 (中心静脈カテーテル関連)	中心静脈カテーテル抜去	7+5 症例
9	栄養に係るカテーテル管理関連 (PICC関連)	PICC (末梢留置型中心静脈注射用カテーテル) 挿入	8+5 症例
11	創部ドレーン管理関連	創部ドレーンの抜去	5+5 症例
12	動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺による採血	9+5 症例
		橈骨動脈ライン確保	
13	栄養・水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴投与中薬剤 (高カロリー輸液) の病態に応じた調整 脱水の程度の判断と輸液による補正	11+5 症例
15	術後疼痛管理関連	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	8+5 症例
16	循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整	16+10 症例
		持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整	
		持続点滴中の降圧剤の投与量の調整	
		持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整	
		持続点滴中の利尿剤の投与量の調整	
区分別科目合計時間数			119
合計時間数 (共通科目+区分別科目数) 時間			369時間+各 5 症例
合計行為数 17区分			15

3. 救急領域パッケージ

	特定行為区分	特定行為	領域パッケージ
			救急 (時間数+症例数)
1	呼吸器関連 (気道確保に係る行為)	経口・経鼻気管挿管チューブの位置調整	9+5 症例
2	呼吸器関連 (人工呼吸療法に係る行為)	侵襲的陽圧換気の設定条件の変更	29+20 症例
		非侵襲的陽圧換気の設定の変更	
		人工呼吸器がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	
		人工呼吸器からの離脱	
12	動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺による採血 橈骨動脈ライン確保	13+10 症例
13	栄養・水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴投与中薬剤 (高カロリー輸液) の病態に応じた調整 脱水の程度の判断と輸液による補正	11+5 症例
17	精神及び神経症状にかかる薬剤投与関連	抗けいれん剤の臨時的投与	20+5 症例
		抗精神病薬の臨時的投与	
		抗不安薬の臨時的投与	
区分別科目合計時間数			82
合計時間数 (共通科目+区分別科目数) 時間			326時間+各 5 症例
合計行為数 17区分			9

4. 集中治療領域パッケージ

	特定行為区分	特定行為	領域パッケージ
			集中治療
1	呼吸器関連 (気道確保に係る行為)	経口・経鼻気管挿管チューブの位置調整	9+5症例
2	呼吸器関連 (人工呼吸療法に係る行為)	侵襲的陽圧換気の設定条件の変更	23+15症例
		非侵襲的陽圧換気の設定の変更	
		人工呼吸器がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	
		人工呼吸器からの離脱	
4	循環器関連	一時的ペースメーカーの操作及び管理	8+5症例
		一時的ペースメーカーのリード抜去	
		経皮的心肺補助装置の操作及び管理	
		大動脈内バルーンパンピングからの離脱を行うときの補助の頻度の調整	
8	栄養に係るカテーテル管理関連 (中心静脈カテーテル関連)	中心静脈カテーテル抜去	7+5症例
12	動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺による採血	9+5症例
		橈骨動脈ライン確保	
16	循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整	20+15症例
		持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整	
		持続点滴中の降圧剤の投与量の調整	
		持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整	
		持続点滴中の利尿剤の投与量の調整	
区分別科目合計時間数			76
合計時間数 (共通科目+区分別科目数) 時間			326時間+各5症例
合計行為数 17区分			10

研修受講料について

入学金：20,000円

共通科目、区分別受講料

共通科目+領域パッケージまたは区分別科目の合計金額を受講料とします。(例：亀田グループ職員：共通科目 150,000+救急領域パッケージ 110,000=260,000)

No	区分別科目	時間	亀田グループ職員	外部受講者
0	共通科目	250	150,000円	300,000円
①	在宅・慢性期領域パッケージ	61	80,000円	240,000円
②	外科術後病棟管理領域パッケージ	119	210,000円	630,000円
③	救急領域パッケージ	82	110,000円	330,000円
④	集中治療領域パッケージ	76	120,000円	360,000円
1	呼吸器 (気道確保に係るもの) 関連	10	10,000円	20,000円
2	呼吸器 (人工呼吸療法に係るもの) 関連	31	30,000円	60,000円
3	呼吸器 (長期呼吸療法に係るもの) 関連	9	10,000円	20,000円
4	ろう孔管理関連	23	20,000円	40,000円
5	栄養に係るカテーテル管理 (中心静脈カテーテル管理) 関連	8	10,000円	20,000円
6	栄養に係るカテーテル管理 (末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理) 関連	8	10,000円	20,000円
7	創傷管理関連	35	30,000円	60,000円

8	創部ドレーン管理関連	6	10,000円	20,000円
9	動脈血液ガス分析関連	14	20,000円	40,000円
10	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	17	20,000円	40,000円
11	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	17	20,000円	40,000円
12	循環動態に係る薬剤投与関連	31	30,000円	60,000円
13	循環器関連	20	20,000円	40,000円
14	胸腔ドレーン管理関連	13	20,000円	40,000円
15	腹腔ドレーン管理関連	8	10,000円	20,000円
16	術後疼痛管理関連	8	10,000円	20,000円
17	精神及び神経症状にかかる薬剤投与関連	32	30,000円	60,000円

*再試験・追試験受験料や受講期間内で修了認定が受けられない場合、追加受講料が発生する

*研修のための宿泊費、交通費は自費負担

第3期 研修生募集方法

1. 出願手続き

ホームページより以下の書類をダウンロードし、募集期間内に郵送してください

2. 出願書類

- 1) 受講申請書(様式1)
- 2) 志望理由書(様式2)
- 3) 履歴書(様式3)
- 4) 推薦書(様式4)
- 5) 看護師免許証の写し(A4サイズに縮小コピーしたもの)
- 6) 認定看護師認定証もしくは専門看護師認定証の写し(有資格者のみ)

【提出先】

〒296-8602

亀田総合病院 卒後研修センター 看護師特定行為研修係

*提出された書類は返却いたしません。

3. 募集期間

2021年6月1日～6月15日 *当日消印有効

4. 選考方法

書類、オンライン面接審査

応募多数の場合は、書類選考し面接者を決定します

5. オンライン面接審査

2021年6月25日(金) 17時～ または 6月26日(土) 10時～

(面接日時は応相談)

オンライン面接詳細については、メールでご連絡します

6. 選考結果

2021年6月30日頃 メールにて通知します

7. 受講料納付方法

合否通知の際に詳細通知

なお、受講にあたっては看護協会の賠償責任保険に加入して頂きます。

受講申請書

【亀田総合病院 特定行為研修】

私は、亀田総合病院 特定行為研修

- ・ 共通科目
- ・ 区分別科目

を受講いたしたく、ここに関係書類を添えて申請します。

西暦 年 月 日

フリガナ

氏名 (自署)

印

西暦 年 月 日 生

現住所 〒

TEL

志望理由書

氏名 _____

特定行為研修受講を希望した理由

特定行為領域パッケージまたは区分科目受講希望（1区分以上5区分まで）

受講希望	特定行為区分名
	在宅・慢性期領域パッケージ
	外科術後病棟管理領域パッケージ
	救急領域パッケージ
	集中治療領域パッケージ
	呼吸器（気道確保に係るもの）関連
	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連
	呼吸器関連（長期呼吸療法に係るもの）関連
	ろう孔管理関連
	栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連
	栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型カテーテル管理）関連
	創傷管理関連
	創部ドレーン管理関連
	動脈血液ガス分析関連
	栄養及び水分に係る薬剤投与関連
	血糖コントロールに係る薬剤投与関連
	循環動態に係る薬剤投与関連
	循環器関連
	胸腔ドレーン管理関連
	腹腔ドレーン管理関連
	術後疼痛管理関連
	精神及び神経症状にかかる薬剤投与関連

履歴書

西暦 年 月 日現在

正面上半身
(40×30mm)
3か月以内に
撮影したもの
裏面に氏名を記入

フリガナ		男 女
氏 名		印
生年月日	西暦 年 月 日生	(満 歳)

フリガナ				
現住所	〒		携帯 TEL :	
			E-mail :	
フリガナ			勤務部署	
所属施設名			*正式名称を記入すること	
所属施設 住 所	〒		TEL	
職歴	施設名	職種	職務期間	
			西暦	年 月 ~ 年 月
			西暦	年 月 ~ 年 月
			西暦	年 月 ~ 年 月
免許取得年月日	保健師	西暦	年 月 日	号
	助産師	西暦	年 月 日	号
	看護師	西暦	年 月 日	号
認定看護師資格分野名 _____分野	認定看護師資格取得年	認定登録番号		
	西暦	年 月 日	号	
専門看護師資格分野名 _____分野	専門看護師資格取得年	認定登録番号		
	西暦	年 月 日	号	
看護協会賠償保険加入	有 (加入 : 西暦 年 月) 無			
当院への通学手段など	電車・バス・自家用車 / 演習・実習時の宿泊予定 有・無			

推薦書

亀田総合病院院長

亀田俊明様

_____を以下の理由により、貴院特定行為研修生として推薦致します。

(推薦理由)

西暦 年 月 日

施 設 名
推薦者職位
推薦者氏名